

令和4年度 社会福祉法人めだかすとりいむ事業報告

令和4年度も引き続き、新型コロナウイルスが社会福祉法人めだかすとりいむに大きな影響を与えた年でした。しかし、新型コロナウイルスに十分気を付けながらも、日常を取り戻すべく工夫を凝らした年でもありました。

【法人の理念と運営方針】

理念 『せっかく生まれてきた一度きりの人生をこの街の中で一緒に豊かに生きていきたい』
この想いを具体的に一つ一つ形にして支え続けていきます

運営方針

- ・就労支援・ ・一生懸命に働くことを通しての社会参加を支える
 - ・生活支援・ ・地域の中で自分らしく豊かに暮らすことを支える
 - ・余暇支援・ ・好きなこと・趣味を見つけて楽しむことを支える
 - ・子育て支援・ ・発達の遅れや心配のある子供たちの療育と地域の中での子育てを支える
- この4つの支援を充実させることによって、障がいのある方の地域での生活を支えていきます

令和4年度 目標

『地域に目を向けながら、社会福祉法人としての役割を見直す』

1. 社会福祉法人の運営

中・長期計画の必要性を感じながらも、策定までには至りませんでした。第4GH、GHの365日運営、利用者の高齢化などの課題に向けて、話し合いを始めています。
年間計画を作成し、遂行することができました。但し、コロナ禍での行事の中止、縮小はありました。

2. 安定した法人・施設運営

① 法人の経営強化

法人経営の安定化を図るため、利用者の確保、稼働率の向上に努めました。コロナ禍で休所せざるをえない場合でも、情報収集に努め、行政と連絡を取りながら対応しました。

② 職員研修に力を入れた一年でした。職員はもとよりパート職員への理念研修に注力しました。

③ 全職員、パート職員への法人理念の浸透に努力しました。

④ 新型コロナウイルス感染防止対策にしっかりと取り組みました。

⑤ 保護者やGHとの連携をとりながら、メンバーの声を聴く機会を設けるなどして運営をすすめました。

3. 新型コロナウイルス対策

① 出勤時の検温・手指の消毒、館内の消毒、換気の実施などを引き続き実施しました。

- ② PCR 検査キット、抗原検査キットを最大活用し、感染拡大を防ぎました。
- ③ 様々な経験を活かし、新型コロナウイルス用の BCP の素案を検討し始めました。

4. 修繕改築計画の実施と計画表の作成

大きな修繕がなかったため計画表は作成せず、優先度と予算を鑑みながら修繕を実施しました。

5. 人材育成、人材確保

- ① 法人の理念を職員・パート職員に浸透させるための研修を重点的に実施しました。

山下理事長、初代施設長の山下佳子氏を講師にお招きし、全事業所のパート職員向けに全8回の理念研修を実施しました。どのパート職員も法人の理念を聞くことができ、理解することができたと感想がありました。

また、サポーターズカレッジを活用し、全職員が計画的に研修を積むことができました。

職員面談は実施することができませんでした。新任職員からは定期面談の希望が出ているため、来年度は実施したと考えています。そこで個人目標を明確にし、仕事へのモチベーションを上げるよう努力します。

- ・ 法人理念研修・初任者研修、年度末研修
- ・ 「めだかのいえ」保護者向け研修会を開催しました。山下佳子さんを講師に、子育てで大切にしてきたこととお話しいただきました。めだかのいえのお母さん方は、時代は変わっても思いはかわらない。この先の子育ての道しるべをもらえたとの感想がありました。

- ② 人材確保に、注力した一年でした。丁寧な募集と対応の結果、3名の正職員を採用することができました。

6. キャリアパスの具体的運用の構築

福祉医療機構のコンサルティングで、法人のキャリアパスの基礎が確立されました。

実際の運用には至りませんでした。誰もがやりがいをもって働ける職場づくりを目指し、今後具体的方法を検討します。

7. 委員会体制の整備

現在ある給食委員会、安全衛生委員会を定期的で開催しました。

新たに設立した虐待防止委員会を定期開催し、虐待防止に努めました。正職員向け虐待防止チェックリストを実施しました。

8. 理事会・評議員会の定期開催

【理事会】 6月9日、1月25日（書面）、3月24日

【評議員会】 6月23日、3月29日

※コロナ禍のため、最小限の開催にとどまりました。

※12月15日に近況報告会を開催し、法人の現状をお伝えしました。また後半は NPO ハンドベルクラブの「クリスマスコンサート」が開催され、ご参加いただきました。

9. 運営協議会の定期開催

コロナ禍のため開催できませんでした。

10. 部門別実施計画

(ア) すいーつばだけ

○メンバー工賃の回復

メンバーの工賃は一時10割支給まで回復させることができましたが、水光熱費や材料費の高騰が原因で年度末には再び7割支給となりました。

○授産製品の値上げの実施をしました。

社会情勢やお客様の反応、単価計算などを考慮し、各部門とも値上げを実施しました。

○授産部門の設備、備品の購入（交換）と管理

購入品・・・糸鋸（30万円）、カフェショーケース（63万円）、エアコン2台（34万円）
修理・・・木工レーザー彫刻機（50万円）

※助成金（前川報恩会）でパン工房の『リバースシート』を購入しました。

○良い商品づくりに努力しました。

○利用者の確保

・特別支援学校への働きかけや外部機関との連携により3名の方が新規利用となりました。

○クッキー工場の増設

新たに申請した『清水基金』の助成金が決定したため、令和5年度に増築工事を実施します。
これにより、メンバーの休憩室の確保、作業の効率化がはかれます。

○家族の高齢化に伴う将来への支援

令和4年度は具体的な実施はできませんでした。保護者会と連携し、進めていきます。

○表現の時間の充実

製品化には至りませんでした。新たなメンバーも加わり、メンバーにとって大切な時間になっています。

○衛生管理

HACCPを遂行し、衛生管理に努めました。

(イ) グループホーム

メゾンめだかさくら館の土日運営を月3回実施しました。

メゾンめだかさ羅の木の祝日運営を実施しました。日中の余暇支援も工夫して楽しみました。

医療受診同行にしっかりと取り組みました。

(ウ) 相談支援センターめだか

新規件数が増えています。職員体制も若干強化され、よりよい支援につながりました。

また、困難ケースに対応することも多いです。

学校と連携し、児童生徒の相談にも取り組みました。

(工) 地域活動支援センター「めだかSUN」

困難ケースにも対応し家庭訪問、他事業所との連携などを実施しました。

(オ) 居宅介護事業所「ぐー・ちょき・ヘルパーMICS」

新型コロナウイルスの影響に翻弄された年でした。その中でもできる支援をしてきました。安心・安全と余暇支援の幅を広げることの両立は難しく、結果利用率は増えませんでした。

(カ) 児童発達支援事業「めだかのいっぽ」

「めだかのいっぽ」の特徴である、親子登園、きょうだい保育の必要性を大切にし、それぞれの意味を職員間で十分話し合いました。

利用児童が増えませんでした。送迎がないこと、親子登園で完全に預けられないことが原因と考えられます。しかし、めだかのいっぽの理念を大切にしつつ、利用児童を増やす努力をしています。

(キ) 放課後等デイサービス「めだかのいえ」

安心、安全な運営ができました。土曜日の研修会、電車利用の遠足など新たな取り組みができました。

1 1. 事務部門

勤怠管理ソフトの導入を試験的に始めました。これにより、勤怠管理がスムーズに行えるようになりました。

1 2. 地域との結びつき

ずくぼんじょ・小学生福祉教育など開催方法を工夫しながら実施することができました。地域の造園屋さんと一緒に、街頭の植樹をしました。

1 3. NPOめだかふぁみりいとの連携

めだかふぁみりいとの連携を密にし、その活動を共に支え合いました。